

人材育成・男女共同参画委員会／日本工学アカデミー共同企画シンポジウム
20年後を見据える科学技術人材育成
「グローバルに活躍する自立型女性・若手研究者/技術者」
東京大学大学院工学系研究科、マテリアル工学専攻 高井まどか

人材育成・男女共同参画委員会では、2002年委員会発足当時から春の学術講演会で、男女共同参画、および人材育成をテーマにシンポジウムを実施してきました。今年、(社)日本工学アカデミーとの共同で、20年後に必要なとされる科学技術人材を育成するには、どのような取り組みが必要なのかを、現状把握と課題について討論を行う場として本シンポジウムを企画致しました。

シンポジウムに先立ち、本委員会の委員長である小舘香椎子氏(日本女子大名誉教授)の第10回応用物理学会業績賞の受賞記念講演「理系女性研究者育成と男女共同参画・人材育成の推進」が行われました。小舘先生の幼少期から研究者人生を歩むことを決意した経緯、さらには大学における理系女性研究者をどのように育成してきたのか、指導的立場にある女性研究者ロールモデルの必要性、研究の楽しさなどをお話になられました。女性研究者がこの応用物理分野で活躍するきっかけを作ってくれた小舘先生のすばらしい業績および多大なる貢献は、若手女性研究者に勇気と希望を与えてくれました。

シンポジウムは、応用物理学会副会長、小長井誠氏(東京工業大学)と、日本工学アカデミー会長、中原恒雄氏の挨拶で始まり、来賓挨拶として、板東久美子氏(文部科学省 生涯学習政策局長)に講演頂きました。板東氏は、日本の若手・女性研究者の自立的な研究環境整備が必要であり、若手・女性研究者の就業率をあげるために国際公募を行い世界的な規模で人材を育成する必要性を述べられました。

挨拶に続き、第一部として日本の科学技術分野における人材育成の基盤づくりを担っている3名の講師の先生に講演を頂きました。奥村直樹氏(総合科学技術会議 議員)は、高度科学技術人材の育成強化策:大学院教育のあり方について、総合科学技術会議での取り組みについて紹介されました。イノベーションの創出とは、新たな価値を生み出し、経済社会の大きな変化を創出すること、と位置づけ、大学院生にはより積極的に学外(産業界、社会)と対話し、変化対応時に適応できる基礎、基盤的な学力を取得することの必要性を指摘されました。次に、日本工学アカデミーの柘植綾夫氏(芝浦工業大学 学長)から、知識基盤社会を牽引する人材の育成と活躍の促進に向けてというテーマで、21世紀の日本の国創りには、教育・科学技術・イノベーション政策の一体的推進をするしかなく、勝負はこの10年、改革は今、と強調されました。休憩をはさみ、潮田資勝氏(物質・材料研究機構 理事長)から研究環境における多様な人材の必要性について、現場での研究環境について、日本には人材以外は資源がないので、知恵で勝負しなくてはならず、科学を発展させそれを応用して技術を育て、リッチな社会を作っていくには、女性研究者、外国人研究者という多様な人材を研究現場に入れるのがよい、と意見を述べられました。また、女性研究者比率をあげるには、拘束力のあるポジティブアクションをとることが必要と強調されました。

第二部では、女性・若手研究者/技術者が自立してグローバルに活躍できるように必要とされる人材育成の取り組みについて、グローバル社会での女性・若手研究者/技術者の自立素養を磨くには—というテーマでパネルディスカッションを行いました。パネリストとして、応用物理学会にて人材育成部門のアカデミックロードマップをつくった吉野淳二氏(東工大)、若手研究者への支援策を手がけた久保真季氏(国立女性教育会館)、企業の女性研究者として活躍されている渡辺美代子氏(東芝、応用物理学会理事)、松居恵理子氏(ソニー)、中国から日本に来て学位(工学)を取得し現在 NIMS の光触媒材料センター長である Jinhua YE(葉金花)氏(NIMS)、国際化研究拠点プログラム(GCOE)の特任助教である植田讓氏(東工大)から、それぞれの視点でグローバル化に向けた取り組みについて説明された後、私の司会のもと、グローバル社会で活躍されるための素養についてディスカッションを行いました。

議論ができる場をつくること、研究や技術だけでなく教養をみにつけること、多様な働き方を支援する制度を設けること、理工系の職業が魅力的であることを実践して示すことがこれからの若手研究者、女性研究者を育てることにつながるのではないかとまとめられました。

最後に、下川貴久枝氏(NPO 法人 JETO 技術経営責任者)より、パネルディスカッションのまとめと 2009 年 に新設された女性研究者奨励育成貢献賞(小舘香椎子賞)について説明があり、シンポジウムは終了しました。参加者は例年に比べ若干少ない(約90名)状況でしたが、国の取組みから現場の意見までグローバル化社会に向けた人材育成について幅広く議論ができ有意義なシンポジウムとなったのではないかと思います。

最後にシンポジウムの企画をともにして頂きました菅谷綾子氏(ニコン)、寺田久美氏(三菱電機)、山田明氏(東工大)、下川貴久枝氏(NPO 法人 JETO 技術経営責任者)、総括的に取りまとめて頂きました小舘香椎子委員長、山田敏之専務理事(日本工学アカデミー)、当日の運営を担って頂きました栗野祐二氏(慶應大)、谷川ゆかり氏(産総研)、森岡由紀子氏(NEC)、島田純子氏(JST)、および駒井友紀氏(日本女子大)、遠山嘉一氏(東大)および神谷武志氏(情報通信研究機構)、さらに企画運営をサポート頂きました応用物理学会事務局の皆様感謝申し上げます。